

## 9 これからの「教育協働アカデミー」の方向性！そこに託す、我が思い！

堂本 彰夫

### (1) ようやく見つかった？「最後の役割（使命）」?! 苦闘している人達の出会いと共創の場づくり！

新年度も始まり、私以外の？関係者は、それぞれの持ち場／立場で、新たな職務／活動を始めていることであろう！そして、こういうことをしたい！だが、これについては、どうなっていくのだろうか？とか、様々なことを思案していることであろう！もちろん、家族のこととか、半ば個人的な面も含めてであろうが？それはともかく、そうした人達の中には、現状を変えたい！もっと良くしていきたい！そうした思いを持った人達がいる！とりわけ、子ども達や地域社会のあり様に、かなりの不安や危惧を抱いている教育関係者（学校教育、社会教育を問わず！）は、数限りなくいる?! しかし、往々にして、彼らの思いや職務／行動は、諸般の阻害条件に遭遇し（多くは金銭的な問題?）、意気阻喪（多くは、抵抗や足を引っ張られ?）、そして、やがては日々をこなすだけのものとなる?あるいは、孤立無援な（孤独な）状態に追い込まれる?言い換えれば、そこには、諦めや無力感が醸成されるということである?! 残念ながら、近年は、そうした状況が、さらに進んでいる?!

だが、一方で、そうした中であっても、ある時出会った（or 自らアプローチした）事物／人に、ヒントや勇気／活路をもらうことがある！たとえ、居住地や職場・活動場所が違っていても、同じような思いや悩みを有している人達がいる！そこに、やる気や展望が見出せるのである！現在は、そうした出会いや思いの共有が重要なのである！だから、そういう場や関係を作り出し、そうした、言わば「ヒューマンネットワーク」を拡大していくことが求められるのである！そこから、新たな視点やエネルギーが得られるのである！さらに、そのことを飛躍的に可能とする「DX化」も進んでいる（Line やズーム／ユーチューブ等）！そして、彼らは、定期的に、時間的／金銭的な負担を乗り越えて、直接的な出会いの場や関係（多くは、いわゆる「ハイブリッド」方式）を構築している！余計なことだが、本当に楽しそうに、それをやっている?!

まあ、以上のようなことを、私は、ある意味勝手に想像／推測、そして評価しながら、これまでやってきた、そしてこの文章を書いているのであるが、やはり、私の方とすれば、それら（彼ら）と、なかなか連動出来ない！否々、一方的、一過性的な関りしか出来ていない?そして、やっている人達には申し訳ないが、否、大変失礼でもあるが、まだまだ求められるものとはなり切っていない?一部の人達の取り組みに終わっている（楽しそうではあるが?）?もちろん、その原因の一つは、働きかけ（関わり方）の弱さからであるが、もう一つは、そのやり方（方途）の拙さ（限界?）にあることは間違いない！尤も、自らの立場（影響力や知名度を失くした高齢者、しがた元大学教師!）が、その元凶であることは明白であるが、その限界は、予想以上に大きいわけである！だけど、まだまだ諦めてはいない！否、自分がやれることは、最後までやりたいのである！空しいあがきかもしれないが、それが、今の私の願いでもあり、生き甲斐なのでもある（繰り返すようだが、意地でもある?ある人達にとっては、迷惑なことかもしれないが?笑）!

### (2) 「教育協働アカデミー」から生まれる「岳陽チャンネル」の始動?!

ところで、そういう中で、現在、私は、既知の方もおられると思うが、自分のHP上に、「岳陽チャンネル」という新たなページを加え、上記のような隔たり（不満?）を払拭すべく、日夜（本当である!）頑張っている?ちなみに、そのページは、自らの論考（記事）を、AIの助力?を得て、音声解説や動画解説という形で提供しているものであるが、これは、偏に、読者（教育関係者?）のみなさんとの交流を図るための実験（実際は浅知恵?）であり、文字情報では、何せ大部で、しかも分かりにくい表現も多々あるので（内容自体も?）、読む側に、可能な限り手軽に（気楽に?）接近してもらおうとするものである！ただし、現状では、おそらくその目的は、半分も達していないのではないかとも思っている（かなりの苦笑?）。しかしながら、この取り組みは、まさに双方向のやり取り（コミュニケーション）を意図しているものであり、「チャンネル」と名付けているのは、そのためでもあるわけである（その意味では、現在のところ、「羊頭狗肉」となっているが?）!

いずれにしても、そこで重要なのは、いわゆる「学校教育」と「社会教育」の、双方の力（成果と関係）の「合力づくり」である！要は、片方の力（努力）だけでは限界があるということであり、そもそも、現代社会が抱える教育の課題は、その双方の教育の力の合力を必要としているということである（いじめや不登校、学習意欲の偏りや減退等は、一方の、家庭や地域社会のあり様と密接に関わっていることは明らか?）！ただし、問題なのは、そうした「合力」づくりのきっかけや関係が、事実上ない?あるいは、そのための余力が、その双方にないということである?!だから、その中で、そうであってはならないということで、一部

の思いある人の出現とか、その関係づくりが、一応は進んでいるのであるが、それもまた、厳しい現実の中でのこととなっている！

ということで、以下、私自身の、この取り組みに対する思いを改めて示しておきたい。一言で言えば、社会（国家）の存立基盤（の一つ）である「教育」が、今、「岐路（危機?）」に立っている?!だから、何とかしなければならぬ!だが、現状では、そのための有効な手立てがない?関係者は、みな、出来得る限りの仕事（業務）は行っているが、そこ（満足いく結果）に至る道筋や具体的な方略が見えていない?否、残念ながら共有されていない!そうした中で、諦めややりがいの喪失が、加速度的に増えている!何とも哀しい現実がそこにある?そんな中、私が、最後の?有効な施策・取り組みだと捉えている「コミュニティスクール」と「地域学校協働本部事業」の一体的運用がある!やらされている感が強い、何のためにそれを行うかがほとんど見えていないというような実情もあるようであるが、それは、やり方や具体的なプログラムの内容の問題である?!要は、折角の「コミュニティスクール」と「地域学校協働本部事業」があるのであるから、その一体的運用に向けて、双方が協力・合体するべきである（どうせやるなら?）!そういうことである!

### (3)「岳陽チャンネル」の移行、拡大?!

そこで、今思っているのは、本物の双方向の交流チャンネルを別途創り出し、これまでのそれを加えて、新たな「岳陽チャンネル」としてスタートさせたいということである!言うなれば、ユーチューブ動画の作成と活用への期待ということになるが、ここでは、我がアカデミーのコアメンバーの一人であるA君（さん）が構想してくれたものを、以下に示しておきたい。よくも短期間に出来たものである!A君（さん）の熱意（やる気）と能力に、改めて敬意を表する次第であるが、今後、この企画が、可能な限り早く具現化されることを待望するものである!ただし、まだまだ、その大枠であることは言うまでもない!近々、定例の交流会を行うが（13日）、是非とも、この企画を発展させていくつもりである!みなさんも、この企画に、何らかの形で協力して頂ければ、望外の幸せである!

#### <YouTube・ポッドキャスト番組 企画書>

1. 番組コンセプト:「個人の物語を、地域の公共財にする。」 沖縄の公民館や児童館の現場で、日々子どもや地域と向き合っている実践者たち。彼らが持つ「現場の知恵（暗黙知）」を、社会教育の専門家である井上先生が解剖・言語化し、アーカイブしていく対談番組です。
2. 番組の目的: 現場知の可視化: 県内外で評価される実践者の「なぜその活動が本質的なのか」を専門的知見から裏付ける。→人材育成: 現職の職員、保護者、学生、行政関係者へ、これからの社会教育のヒントを届ける。/団体の認知向上: 教育協働アカデミーの活動目的を、深みのあるコンテンツを通じて広く発信する。
3. 出演者と役割 (3人体制)  
【メイン解説・分析】井上先生（元大学教授）  
役割: ゲストの話を社会教育・全国の実践事例・教育学等の文脈で構造化し、その価値を再定義する。  
【ナビゲーター】事務局（AorJさん?）  
役割: 進行・リスナー代表。時間管理を行いながら、専門用語を噛み砕き、一般リスナーの視点で問いを立てる。  
【ゲスト】県内外で評価されている実践者  
役割: 語り手。これまでの人生、葛藤、現在の取り組みの背景をありのままに語る。
4. 配信フォーマット: 1人のゲストを多角的・深層的に掘り下げるため、1サイクルを4つのエピソードに分割して配信します。1エピソード20分程度。  
第1回: 根っこの物語（黎明編）: ゲストの幼少期~志したきっかけ。どんな地域・教育に育てられたか。第2回: 現場の洗礼と葛藤（激闘編）: 直面した壁、挫折、忘れられない親子や子どもとの出会い。第3回: ブレイクスルーと本質（開眼編）: 葛藤の末に掴んだ独自のスタイル。井上先生による専門的な「価値の言語化」。第4回: これからの景色（未来編）: 今取り組んでいる事業の背景と、10年後の未来への展望。
5. 配信形態: スタイル: 音声 + 静止画→慣れてきたタイミングで動画配信を検討 配信先: YouTube その他として、Spotify、Apple Podcast（Spotify for Podcasters を利用）も検討/頻度: 1日1人分（4本）をまとめて収録し、週1回配信。（月あたり1名）→事前に放送内容に関するヒアリングを行い、全体の構成や紐づける学問的知見についてのすり合わせも行う。
6. 残論点: 収録実施場所/機材（レコーダー、マイクを利用する場合は、最低限のもので約4万円程度コストがかかる。ひとまずスマホ録音という形式も可能）/ゲストの声掛け/今後のスケジュール  
収益化・継続プラン（YouTube収益化、スポンサーシップ、間接収益等を検討）

(つづく)